

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	邦楽
----	------	----	----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	とくていひえいりかつどうほうじん にほんおんがくしゅうだん		団体ウェブサイトURL	
	特定非営利活動法人 日本音楽集団		https://www.promusica.or.jp/	
代表者職・氏名	代表 尾崎 太一			
制作団体所在地	〒	151-0073	最寄り駅(バス停)	京王線 笹塚駅
	東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビルB1F			
電話番号	03-3378-4741			
ふりがな 公演団体名	とくていひえいりかつどうほうじん にほんおんがくしゅうだん		団体ウェブサイトURL	
	特定非営利活動法人 日本音楽集団		https://www.promusica.or.jp/	
代表者職・氏名	代表 尾崎 太一			
公演団体所在地	〒	(制作団体に同じ)	最寄り駅(バス停)	(制作団体に同じ)
	(制作団体に同じ)			
制作団体 設立年月	1964年4月			
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	代表:尾崎太一、副代表:米澤浩 運営委員長:元永拓、運営委員:原郷隆、田野村聡、福嶋頼秀、他3名 事務局:中山美穂子		正会員:66名、協力会員:46名、賛助会員:法人2、個人19人(以上、計131名、2法人) 加入条件/本団の趣旨に賛同し、プロとしての音楽活動を行う事や協力・支援する事。	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	米澤 浩(副代表)	

経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	中山 美穂子
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	米澤 浩 / yonesan.108@nifty.com		

制作団体沿革・ 主な受賞歴	<p>【特定非営利活動法人 日本音楽集団】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1964年、演奏家と作曲家の14名で設立。同年11月に第1回定期演奏会を開催。 ・1981年、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団 命名200年記念委嘱作品『急の曲』(三木稔作曲)を同オーケストラ音楽監督クルト・マズア氏指揮で初演。 ・1999年、特定非営利活動法人に認定。 ・2001年、邦楽アンサンブルとして初めて『プラハの春』に招聘(第25次海外公演)。 ・2010年、第30次海外公演(ユーラシア音楽祭、ロシア、モンゴル公演)を実施。 <p>年3回の定期演奏会の他、全国各地の鑑賞団体や文化施設主催のコンサート、小・中・高等学校での鑑賞会、CD、放送、映画、そして『スーパー歌舞伎』などの演劇の音楽も担当するなどの活動を行い、定期演奏会は2024年9月までに243回を数えます。</p> <p>【受賞歴】</p> <p>1967年芸術祭奨励賞 1970年芸術祭大賞 1971年芸術祭優秀賞 1978年第2回音楽之友社賞、レミー・マタン音楽賞 1988年松尾芸能賞特別賞 1990年モービル音楽賞</p>		
学校等における 公演実績	<p>昭和39年(1964年)に任意団体として設立し、平成10年(1998年)までに723公演以上の学校鑑賞会の実績を持ちます。(創立から昭和57年までの実績データは不明。)</p> <p>平成11年(1999年)にNPO法人となって以降は400公演以上の実績を持っています。</p> <p>その中、平成18年(2006年)より認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワークと協働している『Meet_The_和楽器』プロジェクトを実施して来た過程で、平成24年(2012年)に『<u>箏体験プログラム《さくらリレー》</u>』を確立させ、実施して来ています。</p> <p>令和5年(2023年)までに『Meet_The_和楽器』プロジェクトで、『<u>箏体験プログラム《さくらリレー》</u>』を東京都中央区・江東区内の<u>小学校延べ43校で小学校4年生4199名を対象に実施した実績</u>を持っています。</p> <p><u>文化庁の学校巡回公演事業でも『箏体験プログラム《さくらリレー》』を含めた『巡回公演プログラム』を実施いたします。</u></p>		
特別支援学校等における 公演実績	<p>※文化庁巡回公演事業における実績</p> <p>平成26年度／愛知県立豊橋特別支援学校 平成27年度／滋賀県立三雲養護学校、大阪市立平野特別支援学校 平成28年度／福岡県立福岡聴覚特別支援学校、長崎県立盲学校 平成30年度／青森県立八戸聾学校・盲学校</p> <p>※アーツカウンシル東京の事業における実績</p> <p>令和4年度／東京都立新宿養護学校、東京都立田園調布特別支援学校 令和5年度／東京学芸大学附属特別支援学校 令和6年度／旭出学園(私立特別支援学校)、 東京都立東久留米特別支援学校(11月実施予定)</p>		
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	無	
	※公開資料有の場合URL		
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
		PW:	

別添	なし
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 特定非営利活動法人 日本音楽集団】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	『ごんぎつね』～日本音楽集団と音楽づくり！～			
企画のねらい	<p>小学校では『ごんぎつね』の「ごんのうた」で共演、中学校では箏（こと）の演奏で『さくら～手と手をつなごう！』で共演することにより、生徒代表と演奏者が《音楽づくり》《共演体験》《協働体験》を共有し、その発表を全校生徒が鑑賞することにより《間接的体験》も共有することも意図しています。</p> <p>又、多彩な演奏家が集まっている演奏団体として、各楽器の演奏家が古典作品を紹介することはもちろんですが、それぞれの「音楽との出会い」や「自分の楽器・演奏への思い」など、演奏家として現在に至る「個人史」にも触れ、《キャリア教育》《キャリアプランニング》にも寄与することを意図しています。</p>			
演目概要・演目選択理由	<p>第1部は司会者（協力俳優）と演奏者により各演奏者の紹介と古典や現代の合奏曲の紹介、第2部は音楽朗読劇の『ごんぎつね』で構成しています。</p> <p>●【小学校】では、国語の授業で「ごんぎつね」を学習した中・高学年の中から学校側で代表の学年を選出して頂き、『ごんぎつね』の「ごんのうた」で日本音楽集団の7名（7種）の演奏者と共演して頂きます。</p> <p>●【中学校】では、ワークショップで箏（こと）を体験した生徒さんから代表生徒（10名以内）を選出して頂き、『さくら～手と手をつなごう！』で日本音楽集団の7名（7種）の演奏者と箏の演奏で共演して頂きます。</p>			
児童・生徒の参加又は体験の形態	<p>●【小学校】『ごんぎつね』を国語の時間に学習した4年生以上の児童生徒を代表として選出して頂き、「ごんのうた」で日本音楽集団と共演し、日本音楽集団の演奏者と《音楽朗読劇を作り上げる過程を共有》して《協働の場》を持つことを意図しています。</p> <p>●【中学校】代表生徒の皆さんに箏（こと）を演奏してもらい『さくら～手と手をつなごう！』で7名の日本音楽集団の演奏家と共演して頂きます。尚、箏の面数とプログラム全体の時間枠から共演する代表生徒は2年生以上の10名までとさせていただきます。（生徒さんを入れ替えて複数回演奏することには対応できません。）</p>			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	【小学校】歌で共演：最大160名 【中学校】箏の演奏で共演：最大10名	
		鑑賞人数目安	50名～300名	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>(1) 【小学校】『宮崎駿アニメ・メドレー』（秋岸寛久編曲）</p> <p>(1) 【中学校】『さくら～手と手をつなごう！』（高橋久美子編曲） ／◆中学生代表生徒（10名以内）が《箏で共演》</p> <p>(2)～(6)『日本の楽器たち』（古典作品） ／六段の調、鹿の遠音、春の海、那須の与一、幕間三重・獅子狂い五段</p> <p>(7)『子どものための組曲』（篠田大介作曲） ～休憩（10分）～</p> <p>(8) 【小学校】『ごんぎつね』～語りと合唱と邦楽器で作る音楽朗読劇～ （作：新美南吉、音楽：川崎絵都夫、作詞：佐藤万里） ／◆児童生徒代表が《歌で共演》</p> <p>(8) 【中学校】『ごんぎつね』～語りと邦楽器で作る音楽朗読劇～（作：新美南吉、音楽：川崎絵都夫） ／鑑賞のみ</p>			
	公演時間 100 分			
出演者	<p>●7種の和楽器の7名の演奏家（日本音楽集団_団員）</p> <p>○ 笛／新保 有生・あかる 潤・芝 有維、</p> <p>○ 尺八／元永 拓・原郷 隆・田野村 聡、</p> <p>○ 三味線／杵家 七三・山崎 千鶴子・蓑田 弘大・長井 麻江、</p> <p>○ 琵琶／久保田 晶子・藤高 理恵子、</p> <p>○ 箏（こと）・二十絃箏／熊沢 栄利子・桜井 智永・三宅 礼子・石井 香奈、</p> <p>○ 十七絃箏／城ヶ崎 美保・丸岡 映美・久本 桂子、</p> <p>○ 打楽器／臼杵 美智代・多田 恵子・盧 慶順・山内 利一、 他</p> <p>●協力俳優（助演）</p> <p>○ 司会と朗読／飛山 真利子・宝本 夢子・吉瀬 はなこ、 他</p> <p>以上、7名の演奏家と司会・朗読1名、計8名を派遣</p>			
演目の芸術上の中核となる者（メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等）の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<p>米澤 浩（企画・構成・制作／日本音楽集団_副代表）</p> <p>元永 拓（尺八演奏家／日本音楽集団_理事）</p> <p>原郷 隆（尺八演奏家／日本音楽集団_理事）</p> <p>田野村 聡（尺八演奏家／日本音楽集団_理事）</p>			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 8 名	運搬	トヨタ ハイエース	
	スタッフ: 1 名		積載量: 1.25 t	
	合計: 9 名		車長: 4.84 m	
			台数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9時30分	9時30分～12時15分 (共演のリハーサル含む)	13時30分 ～15時10分	10分	15時20分 ～15時50分	16時

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月
	0日	0日	0日	0日
	10月	11月	12月	1月
	10日	19日	15日	0日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



【ワークショップ】～会場の設営～

写真のように体験用の箏を20面配置するスペースに加え、共演の練習のための演奏者用の楽器を配置するスペースも必要であるため、ワークショップ会場は体育館とさせていただきます。



【ワークショップ】～モニターを使って説明～

どうやったら良い音でお箏を弾けるのか等を、モニターを使い分かりやすく説明しながらワークショップの楽器体験を進めて行きます。

モニターカメラや三脚に加え、ポータブルスピーカーやマイク・マイクスタンド等は日本音楽集団で持ち込みますが、モニター用に学校備品のテレビ・電子黒板、及び、電源ドラムコードなどをお借りします。



【本公演】～会場の設営～

体育館フロアでの公演を基本としています。体育館は横長に使用し、演奏者がどのように楽器を演奏しているか等、演奏者の手の動きや息づかいなどを、少しでも「間近に見て感じてもらう」ことを目指しています。低学年の子ども達は、前列に並ぶか中央部に座るか等を各実施校毎にご相談しながら着席して頂きます。



【本公演】～演奏に必要な広さ～

演奏に最低限必要なスペースは、「間口8m」・「奥行き3m」です。

『演奏者エリア』から約3m程度離れたところから児童生徒さんが着席する『鑑賞エリア』を設定して下さい。

●【中学校】では、写真の「演奏スペース」と「鑑賞エリア」の間のフロアに「共演用の箏10面」を設置しますので、『鑑賞エリア』はこれに伴い後ろに下がることとなります。

著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	『ごんぎつね』
	該当事項がある場合	権利者名 川崎 絵都夫 氏	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 特定非営利活動法人 日本音楽集団】

ワークショップのねらい	<p>●【小学校】で実施する『箏体験プログラム《さくらリレー》』は単に「箏（こと）に触れてみる」プログラムではなく、<u>2人のペアの協力とクラス全体の協力で「さくら」を演奏する《協力要素》</u>を盛り込み、<u>《クラス全体で達成感を共有》</u>してもらう<u>《参加型体験プログラム》</u>として実施しています。</p> <p>●【中学校】で実施する『箏体験プログラム《さくらリレー》』は、まずは「箏（こと）に触れる」ところから始め、進捗具合に沿いながら『さくら～手と手をつなごう！』で日本音楽集団の演奏者との<u>《共演体験》</u>を目指して実施します。</p>		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	最大160名（4クラス）／ 【楽器体験】授業時間1コマ単位でクラス毎に実施、最大4クラス（4コマ）まで可能。
ワークショップ実施形態及び内容	<p>ワークショップ（以下、WS）は、【小学校】には演奏家5名と協力俳優1名の計6名、【中学校】には演奏家5名を派遣して実施します。</p> <p>● WSの会場／【小学校・中学校】共通 体験用の箏（こと）20面と共演する演奏者用楽器を配置するスペースを確保するため、基本的に<u>体育館をWS会場とさせていただきます。</u> (◆No.2の「公演に係るビジュアルイメージ」をご参照下さい。)</p> <p>● 箏体験【小学校・中学校】共通／『箏体験プログラム《さくらリレー》』 私共法人が箏（こと）20面を実施校に持ち込み『箏体験』をクラス単位で実施します。 又、弾き方を紹介するためのモニター用ビデオカメラ類も持ち込み、学校備品の電子黒板・テレビモニター等をお借りして生徒の皆さんに分かりやすく解説して進行します。 (◆No.2の「公演に係るビジュアルイメージ」をご参照下さい。) 尚、<u>小学校でのWS実施対象学年は、国語の授業で「ごんぎつね」を学習した4年生以上とさせていただきます。</u></p> <p>● 共演の練習／</p> <p>●【小学校】での共演 代表の児童生徒のクラス合同で『ごんぎつね』～語りと合唱と邦楽器で作る音楽朗読劇～に登場する3曲の『ごんのうた』で共演するための練習を、最後の授業時間枠に行います。 本公演で『ごんぎつね』を朗読する協力俳優の指導により、5人の演奏家（尺八・三味線・二十絃箏・十七絃・打楽器）が伴奏して共演する「ごんのうた」の練習を実施します。</p> <p>●【中学校】での共演 本公演では『成果発表』として代表生徒の皆さん（<u>2年生以上10名以内</u>）と日本音楽集団の演奏家が『さくら～手と手をつなごう！』で共演をします。 楽器体験では、<u>進捗具合に沿いながら（無理をせず）</u>生徒さんが『共演体験』を持てることを目指しています。</p> <p>●【小学校】WS_実施のタイムテーブル例／ 1校時目ー箏（こと）類の搬入と準備、 2校時目ー箏体験（代表1クラス目） 3校時目ー箏体験（代表2クラス目）、 4校時目ー箏体験（代表3クラス目） 5校時目ー箏体験（代表4クラス目）、 6校時目ー共演練習（体験クラス合同で実施）</p> <p>●【中学校】WS_実施のタイムテーブル／ <u>体育館を使用できる時間枠にも関係するため、個別に相談いたします。</u></p> <p>◆注記◆ 前泊地から実施校が離れている場合は、1校時目から準備を開始することが難しい場合があります。その場合は<u>2校時目に箏類の搬入・準備をし、3校時目以降に箏体験を行うため代表のクラス数は減少</u>します。</p>		

<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>日本音楽集団で実施している『箏体験プログラム《さくらリレー》』は、試行を経て平成24（2012）年に東京都中央区の小学4年生を対象に本格的にプログラムの実施を開始しました。</p> <p>令和6年9月の段階で、文化庁巡回公演事業でのワークショップも含め<u>全国の小学校延べ151校で約12,200名の児童生徒を対象に実施した実績</u>を持ち、実施現場からのフィードバックを基にしたブラッシュアップも行いながら現在に至ります。令和5年度に中学校での事業実施を開始し、令和6年度より本格的に中学校でのワークショップ実施と本公演での共演を軸として本事業を実施しています。</p> <p><u>『箏体験プログラム《さくらリレー》』は、「体験レッスン」になりがちな楽器体験ではなく、ファシリテーターが体験をサポートしながら『子ども達それぞれが自分で感じながら《箏》という楽器を体験していく』ことに重きを置いたプログラム</u>です。</p>
----------------------------	--

※A4判3枚以内に収まるよう。

別添	なし
本事業への応募理由	【公演団体名 特定非営利活動法人 日本音楽集団】
<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>① 本事業に対する取り組み姿勢 『ごんぎつね』は1998年第150回定期演奏会で初演され、その後7種類の日本の楽器編成に改定。さらに教科書に掲載されている新美南吉の原文のまま上演できるように再構成され、2013年第210回定期演奏会《子どもたちへのメッセージ》においてNHK東京児童合唱団との共演で、改訂・再構成版『ごんぎつね～語りと合唱と邦楽器で作る音楽朗読劇～』が発表されました。</p> <p>「邦楽の普及」を設立主旨の柱の一つとする本法人にとって、<u>次世代へメッセージを送り続ける活動は非常に重要な活動の一つです。</u> これまで、歌で子ども達と共演する『ごんぎつね』～語りと合唱と邦楽器で作る音楽朗読劇～を<u>小学校での本事業の軸作品</u>として来ましたが、令和6年からは新たに<u>中学生を対象とした『さくら～手と手をつなごう！』を本事業の軸作品</u>の一つに加え事業の実施に臨んでいます。</p> <p>【小学校】では、『ごんぎつね』の中の『ごんのうた』を<u>実施校の児童生徒代表の皆さんが歌って日本音楽集団の演奏者との《共演体験》</u>を持つことと併せ、共演する楽器の一つである「箏（こと）」に実際に触れるワークショップを経た<u>《体験と共演の画面》</u>から邦楽器への理解と関心を高めることを意図しています。</p> <p>【中学校】では、本公演のオープニングに<u>代表生徒が楽器体験で演奏した箏（こと）を演奏して『さくら～手と手をつなごう！』で日本音楽集団の演奏者と共演し、コンサートの幕を開けます。</u> 尚、希望校においては、体験や共演練習の場を離れたところでも児童生徒と日本音楽集団の演奏者とがコミュニケーションの場を持てるよう、「給食交流」を推奨・実施しています。</p> <p>② 事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 ②-1) プロデューサー・ディレクターチーム／ 事業実施に向けては、本法人内に「プロデューサー・ディレクターチーム」を組織して準備を進め、いずれの公演においてもワークショップと本公演が円滑に実施できるように準備を進めています。</p> <p>②-2) チェックシート／ 事業実施のための資料『チェックシート』（エクセルファイル）を、本事業プロデューサーが実施校のご担当の先生のご協力を仰ぎながら作り上げ、ワークショップ・本公演に向けて<u>開催校と本法人との間での『情報共有』</u>を図ります。 『チェックシート』は、<u>実際に開催校に赴く演奏者・スタッフにとっても非常に重要な情報ファイルであり、ワークショップ・本公演の事業全体を円滑に実施するために不可欠な資料</u>です。 尚、『チェックシート』をご担当の先生と作り上げて行くためには、<u>メールにエクセルファイルを添付してのやり取りが不可欠なため、《インターネットでのやり取りが円滑に出来ることが必須条件》</u>です。</p> <p>②-3) 実施校に提供する資料／ 公演実施校においてワークショップと本公演に向けて準備を進めて頂くために下記の資料を準備しており、巡回公演の実施が決定した各校には速やかにこれらの資料を提供します。</p> <p>3-1) 教職員用資料 ・日本音楽集団『実施の手引き』／事業実施に向けて日本音楽集団が作成した《準備から事業実施までをまとめた小冊子資料》【<u>小学校・中学校共通</u>】 ・『ごんぎつね』台本【<u>小学校</u>】 ・『ごんのうた』練習用CDR - 協力俳優が歌う『ごんの歌』3曲の《サンプル》と、日本音楽集団演奏の《練習用カラオケ》【<u>小学校</u>】 ・箏体験プログラム『さくらリレー』紹介DVD - 先生方に内容を知って頂くための《教職員専用の事前資料》【<u>小学校・中学校共通</u>】</p> <p>3-2) 児童生徒への配布資料（コピー原本を提供） ・『ごんのうた』楽譜 - 共演する児童生徒代表の皆さんに配布【<u>小学校</u>】 ・『さくらリレー』楽譜 - 楽器体験をする児童生徒代表の皆さんに配布【<u>小学校・中学校共通</u>】</p>